



# 学校だより

雑賀崎小学校  
5 月号  
令和6年度  
2024年度

## ○ 「子どもは大人ではない。子どもは子どもである。」

18世紀フランスの哲学者のジャン＝ジャック・ルソーの言葉です。

ルソー以前は「子どもは小さな大人」として扱われていて、精神的にも肉体的にも大人と同じだけれど、ただ体が小さいだけの存在であると考えられていました。そのため、大人と同じような仕事もさせるし、大人の思考で子どもの教育を考えていました。

しかし、子どもは小さな大人ではなく、子どもには子ども時代という、それ自体が固有の世界があり、子どもの成長過程に合わせた教育をすべきだ、とルソーは主張しました。

ルソーは、「大人があれこれ教えるよりも、子どもたちが自発的に行動し、大人はあくまでもそれを援助する存在であるべきだ。」という考えを提唱しました。



知識を詰め込むよりも、運動や様々な経験を通して、子どもたちの心身を鍛えることを最優先にするという考えです。

子どもたちは、私たち大人と同じ考え方をするのが難しい存在で、私たちが話していることも、うまく理解できていないことも多いようです。



## ○ 反抗期の子どもの接し方（ベネッセ教育情報 HP より）

反抗期とは、子どもが人の意見や指示に反抗することが増える時期のことを言います。主に2～3歳ごろの幼児期と思春期の2回来るといわれていて、それぞれ「第一反抗期」「第二反抗期」と呼びます。また、小学校2～3年生ごろにも反抗的な態度が表れることがあり、これは俗に「中間反抗期」と呼ばれることがあります。

第一反抗期はいわゆるイヤイヤ期で、少しずつできることが増えてくると、一人でやってみたくなくなったり、うまくできないと泣いたり暴れたりすることもあります。

一方、小学校の高学年頃から始まる第二反抗期では、自立の心が芽生えて自分で物事を判断しようとするため、周りからの助言や指示を疎ましく思い、態度や行動でそれを示すことが多くなります。

たとえば、少し前髪を切りすぎた時には、すれ違う人みんなが自分の前髪に注目しているように思えて落ち着かなかったりします。

自我も育ち、自分のことについて考えたときに、不安になったり、視野が狭まったりしてしまうのです。



## 子どもが反抗的な態度をとる理由

小さい頃は、漠然と「親が今言ったことは違う気がする」と思ったとしても、それほど自分の意見をはっきり示すということはなかったでしょう。

しかし、思春期になると物事を考える力もついてきて、疑問に思ったことをうまく表現したり、主張したりできるようになります。自分で物事を見極めたりやってみようとするのです。これが、大人からは反抗的と取られることもあるかもしれません。もちろん、思春期の頃に精神的に落ち着かなくなるということも、反抗的な態度の背景にはあるでしょう。



## 反抗期が無い子どももいる

反抗期は、全員が経験するわけではなく、反抗期がない子も少なくないようです。

それは、精神的な変化や成長があり、反抗したい気持ちがあっても、はっきりした態度には出ない場合です。あるいは、反抗心をうまく自分の中で消化できたり、親子関係のあり方によっては、「反抗期はあったけれど、まわりにはわからなかった」ということもあります。

「数日間、なにかを考えているようだったが、そのうちすっきりした顔でいつもの様子に戻った」ということもあるようです。

また、場合によっては反抗する必要がないと思っている、反抗しても意味がないと思っている、といったケースもあるでしょう。



遠足(稚魚放流)は5月末~6月上旬予定です。

## ☆反抗期の子どもとの接し方7つ

### 1. 子どもが楽しそうにしているときに声をかける

よく子どもに、「ねえ見て！」と言われることが多いでしょう。それはどんな些細なことでも自分でできたことを褒めてほしいから、認めてほしいからなのです。



子どもが落ち込んでいたり、いつもと様子が違ったりするときにはすぐに声を掛けがちですが、集中してなにか楽しそうにしているときこそ「がんばったね」「じょうずだね」と、頑張っている姿もちゃんと見ていることを伝え、子どもも安心感が得られ、自立への手助けにもなります。

### 2. 頼りにされたときは全力でサポートする

子どもが勉強に行き詰まっていたり、友達関係や何か悩んだりしているときに、助言を求めた場合はきちんと向き合ってください。

聞かれてもいないのに、「どうしたの?」「こうやったら?」と言うと、かえって機嫌を損ね、心を閉ざしてしまう可能性もあります。

子どもから頼ってきたら、自分の時の体験談なども交えながら話を聞いてあげると、子どもも心を開いて会話が増えたり、前向きになれるりするでしょう。

### 3. 保護者がストレスを溜めないようにする

保護者のかたも最初は我慢できてもだんだん疲れてくることもあるでしょう。体調を崩さないためにも自分に合った発散法を見つけてください。

例えば、少しでも時間があれば、テレビや本、趣味などに集中し、自分の好きなことをしてみてもいいでしょう。また、外の空気を吸ったり運動したりすると、心身共にリフレッシュできます。また、抱え込まず友人に話を聞いてもらったり、相談して気持ちを軽くするというのもおすすめです。

ストレスがたまると心の余裕がなくなり子どもとの関係にも影響が出るので、うまく発散して子どもと向き合っていきましょう。



### 4. 適度な距離感を保つ

反抗期の子どもとの距離感はとても難しいものです。無理に距離をつめようとするとうっとうしいと思われてしまい、ほうっておくと無関心のようにとらえられてしまいます。

子どもの様子をよく見て、今は話しかけたほうがいいときか、そっとしておいたほうがいいのか、その都度判断しながら距離を図ることが大切です。

必要最低限の会話（あいさつやその日の予定など）は、毎日続けるとそれだけでもコミュニケーションは取れるのでその時に今日の子どもの様子を見るといいでしょう。

## 5. 子どもが安心できる場所を作っておく

どんなに反抗してもまだまだ子どもで、できることも限られています。壁にぶつかることもあるでしょう。そんなときに弱い部分を見せられる存在がいるというだけで子どもも安心します。

いつでもあなたの味方だよということを伝えて態度でも示していくことで、ちゃんと自分のことを考えてくれていると子どもも分かってくれます。



## 6. 自立のために大切な時期だと思い、受け流す



子どもの態度や言動をその都度真に受けていては、保護者側も心がたらくなったり、イライラが募るばかりなので、今はこういう時期だからと受け流す心も必要です。

そうすることによって些細なことからの衝突を減らすことができます。子どもの成長のために必要なことなのだと受け止め、自立につながるならいいことだと、多少の反発は気にしないようにしましょう。

## 7. 第三者に入ってもらう

「子どもの態度を受け止めるのがつらい」「どうしてもけんかになってしまう」「物に当たったり、暴れてしまう」など、自分では抱えきれないと思ったら、他の人に助けを求めましょう。

間に誰かが入ってくれることで、子どもも親には言えないけど他の人になら話せるということもあるでしょうし、お互いに考える時間があることで冷静になることができるかもしれません。

(以上、ベネッセ教育情報 HP より)

## ■ 子育てチームとして…

子どもを一番近くで見守っている家族の力は大きいものです。

家庭と学校が協力して、相談することも大切ですが、友だちや友だちの家族、地域で関わってくれている方々たちの話も聞き、いろんな角度から子どもの様子を共有したいものです。



どこかで頑張っているシーンがあるかもしれません。また、どこかですごく頑張っていて、エネルギーを使いすぎた反動が出ていることがあるかもしれません。

5年後、10年後にみんなが笑顔になれるといいですね。